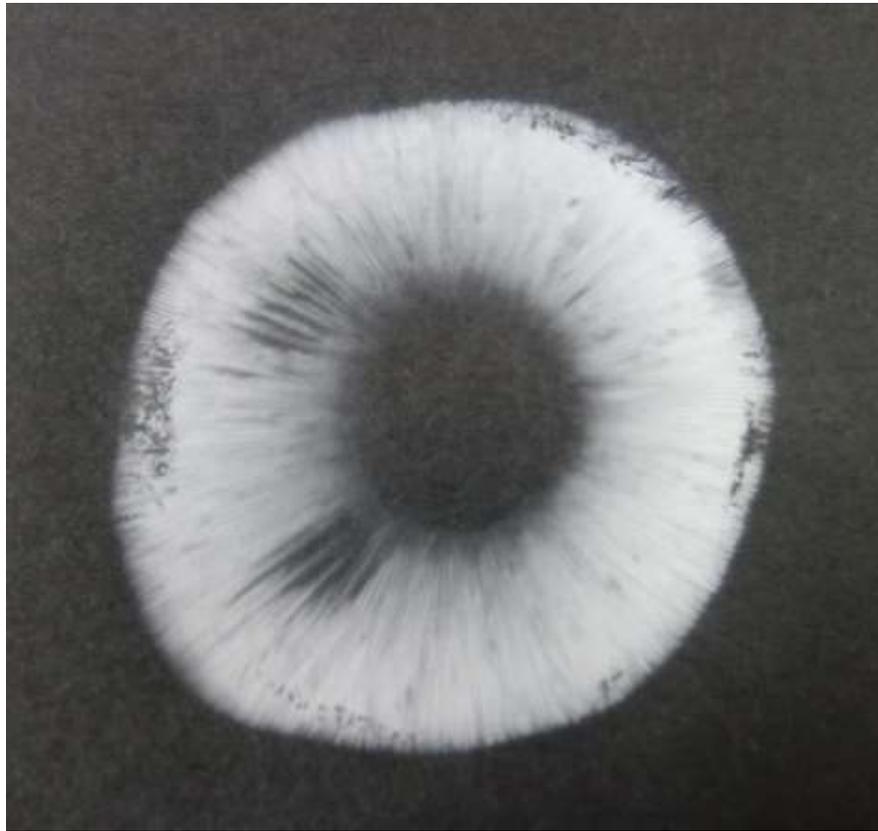


# 花ちゃん、オー君、モンタ博士、フツタ博士のかくかくドドドド立ててく5

国立市立国立第七小学校

平成29年12月7日 NO.74 (474)



オー君 「うわあー！なんだこれ？」

花ちゃん 「なんででしょうね。ドーナッツかな？」

モンタ博士「ちがうよちがう。この前のお話ししたキノコの種だよ。」

オー君 「え！これがキノコの種？どういうことですか。」

モンタ博士「これは、シイタケの種、つまりシイタケの胞子だね。」

花ちゃん 「胞子？このドーナッツのようなものが、その胞子というものなんですか。」

モンタ博士「ちがうよちがう。胞子というのはね、とても小さいもので、顕微鏡で見ないと見えないものなんだ。このドーナッツみたいなものは、その胞子のたくさん集まったものなんだ。白っぽいものは全部胞子だね。」

オー君 「へえー。そうなんですか。ぼくも見てみたいな。」

モンタ博士「一つ一つの胞子を見るのは顕微鏡が必要だけど、上の写真のようなものなら、

だれでも簡単に作ることができるから、やってみるとおもしろいよ」

花ちゃん 「どうやるのですか。教えてください。」

モンタ博士 「とても簡単さ。スーパーなどで買ってきたシイタケの軸をとって傘の部分かさ ぶぶんを黒っぽい紙くろ かみ うえの上に置けばいいのさ。数日すると、紙の上にびっしりと落ちた胞子ほうしを見ることができるよ。」

オー君 「よーし！やってみるぞ！チャレンジしてみるぞ！」

モンタ博士 「何でも実験してみると、新しい発見あたらし はっけんがあるよ。植物が花を咲かせて種たねを作るように、キノコは、胞子を飛ばすためだけに傘のついた、いわゆるキノコを作るというわけなんだ。」

オー君 「ところで、またまた疑問ぎもんに思ったことがあるんだけど、どうして、キノコって、上うえが丸く帽子まるぼうしみたいになっているのに、下したは平らたいになっているのかな？」



モンタ博士 「ほほー。さすがオー君。おもしろいところ、いいところに気がついたね。」

花ちゃん 「そうですね。ほとんどのキノコがそういう形かたちをしていますね。考えてみると不思議ふしぎですね。」



モンタ博士 「その不思議ふしぎに思うことが、どうして

かなと考えることこそ、『科学のはじめの一步』だね。」

花ちゃん 「いろいろな自然界しぜんかいのものかたちの形には、それぞれ意味いみがあるということですね。」

モンタ博士 「ちょっとむずかしいお話はなしになってしまいうけど、つまりこうなんだ。森の中を吹く風は、傘の下は平らなのでまっすぐだけど、傘の上は丸みがありカーブしているの、風は遠回りしてスピードが速くなる。すると傘の上と下では気圧きあつの差ができて、気圧きあつの低い上ひくに向かって『揚力ようりょく』というものが発生する。この揚力ようりょくによって胞子ほうしが舞い上がるのさ。飛行機ひこうきが飛ぶのと同じ原理おなげんりさ。」